

東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ（国）、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス
（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島）

（2019年10月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- ドミニカ総選挙は100日以内に実施される見込みとなり、野党は選挙実施前の選挙改革実現に向け大統領の仲介を要請した。
- カリブ諸国を巡回し、医療サービスを行っている米海軍医療船がセントルシア、セントキッツに寄港し、両国から歓迎、謝意を受けた。
- 水産分野で対ドミニカ（水産施設改修等）及びグレナダ（水産機材調達）に関する2件の無償資金協力が署名された。
- 22日、日本での即位の礼にアンティグア、セントキッツ、セントビンセント、セントルシアから代表が出席した。

2. 内政

- 1日付セントルシア紙は、ニューヨーク訪問中のシャスネ首相は、米在住のセントルシア人と会談し、海外居住者が同国の経済発展に果たす役割は大きいと本国への帰還や投資を奨励したと報道。
- 1日付ドミニカ紙は、野党が市民権のための投資プログラムの管理が不透明と批判し、次期選挙の争点とすると述べていることに対し、スケリット首相は同プログラムを破壊する試みと反論したと報道。
- 5日付セントキッツ紙は、ハリス首相は、有権者資格に6ヶ月以上の居住要件を課す提案は全有権者向けであり、海外居住者を標的としたものではない、次期選挙の選挙区割は前回から変更はないと述べたと報道。
- 12日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、総選挙を100日以内に実施する、与党が勝利すれば、全選挙区に選出議員の地元での活動を支援する管理者を設置すると述べたと報道。
- 29日、グレナダ政府は、11月1日付でピエール教育大臣は情報大臣職を担当する、情報大臣職を担当していたギャラウェイ環境・情報省付情報・防災担当大臣は引き続き防災担当大臣職を維持すると発表。
- 30日付ドミニカ紙は、野党統一労働党は総選挙前の選挙改革を訴え、サバリン大統領の仲介を求めたと報道。

3. 経済

- 1日付セントルシア紙は、韓国は同国消防局に対して、12万米ドルを寄贈したと報道。
- 4日付ドミニカ政府は、1日にラ・プレーン地区で17年のハリケーン・マリアの被害に鑑み、耐久性を強化した住宅66戸の引渡式が行われたと発表。
- 8日付セントキッツ紙は、8日の経済諮問会議でハリス首相は、19年の政財成長率見込みは3.7%と述べた報道。
- 8日付アンティグア紙は、ブラウン首相はバルバドス保有のL I A T航空株式は購入しない、ベネズエラのアルバ銀行から4千万ドルを借入れし、L I A Tに資本注入を行うと述べたと報道。
- 8日、O E C Sは、10月に加盟5カ国でブルーエコノミーに関する公聴会を開催すると発表。
- 9日、ドミニカ訪問中の平山大使は、スケリット首相他出席の下、バロン外務大臣との間で、ロゾー及びマリゴットにおける水産の建物及び機材整備のための無償資金協力(10.72億円)に署名した他、27年度防災機材無償資金協力により調達された機材の供与式典にバロン外務大臣と共に出席した。
- 11日付グレナダ紙は、中国が99年に建設したクリケット球技場を3千万東カリブドルかけて改修する覚書がコックス・スポーツ大臣と中国大使の間で署名された、改修費用の殆どは中国側が負担すると報道。
- 11日、第94回東カリブ中央銀行通貨評議会が同行本部とテレビ会議で開催され、東カリブドルが安定しており、外貨準備も輸入の5.6ヶ月分あり、裏付け率も99.3%、4日時点での国際準備高も44億東カリブドルあるとの声明を発表した。
- 14日付グレナダ紙は、ジョセフ貿易大臣は11日ロンドンでの英連邦貿易大臣会合に出席し、会合では保護主義抑圧、W T O改革等が協議されたと報道。
- 15日、セントビンセント出張中の平山大使は、草の根・人間の安全保障無償資金協力で改修を終えた聖母マリア・ローマカトリック小学校の完成式典に出席した。
- 17日、グレナダ訪問中の平山大使は、デービッド外務大臣との間で、水産分野の機材調達のための無償資金協力(2億円)に署名した。
- 21日付セントキッツ紙は、ハリス首相はワシントンでIMF幹部と会談し、安定した経済成長維持のためのIMFからの支援等につき協議したと報道。
- 23日、O E C S事務局は、ジュールズ同事務局長は韓国でのグローバル・グリーン週間に出席した際に、ライスバーマン・グローバル・グリーン成長研究所長と会談し、O E C Sと同研究所の協力等につき協議したと発表。
- 24日付セントキッツ紙は、ワシントンでの世銀IMF年次総会に出席した

ジャスネ首相は、その機会にカイユム・フィジー司法長官を団長とする太平洋諸島フォーラム（PIF）代表団と会談し、小島嶼国として気候変動強靱化のための開発課題等につき協力することを協議したと報道。

●25日、OECSは、23～26日サルガッサム海藻に関する第1回国際会議がグアドループで開催され、地域の関係国及び関係機関が出席し、同海藻問題の情報提供、各国・機関の実施対策の共有、関係国・機関間の協力強化等につき協議したと発表。

4. 外交

●1日付セントルシア紙は、ジャスネ首相他は停泊中の米海軍国医療船コンフォートを訪問し、同船の医療サービスに謝意を述べたと報道。3日付同国紙は、4千人が同船の医療施術を受けたと報道。7日セントキッツ紙は、5～10日コンフォートは同国に寄港し、歓迎式典にはシートン総督、ハリス首相等が出席し、同首相は米との関係は当然視できない重要性を持つと述べたと報道。

●7日付カリブ各紙は、ドミニカはバルバドスに次いでハイチ人に入国査証を義務付けたと報道。

●7日付セントキッツ紙は、ハリス首相はメンデス米州機構（OAS）事務次長と会談し、麻薬防止、サイバーセキュリティ、移民・国境管理等の分野での協力につき協議したと報道。

●8日、セントルシア政府は、ジャスネ首相、ジラウディ＝マッキンタイヤー上院議長、キング・インフラ・エネギー大臣他が台湾を訪問し、第108回双十節祝賀式典に出席し、蔡英文総統の歓迎を受けたと発表。

●9日、平山大使は、サバリン・ドミニカ大統領に信任状捧呈を行い、またスケリット首相、オーストリー副首相兼農業・漁業大臣、バロン外務大臣等と会談し、今後とも関係を強化することで一致した。

●9日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は来年からの国連安保理非常任理事国就任に備え、現在職員12名の同国国連代表部にジェンダー及び国際関係専門の2名を増員すると発表したと報道。

●10日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は同国での台湾双十節式典で野党新民主党は親中国政策を見直すべきと述べたと報道。

●12日付グレナダ紙は、グレナダとウズベキスタンの外交関係樹立が在ロシア・ウズベキスタン大使館で署名されたと報道。

●15日、セントビンセント訪問中の平山大使はドゥーガン新総督を表敬訪問した他、ゴンザルベス首相、ストレーカー外務大臣と会談した。

●22日、日本で行われた即位の礼にウィリアムス・アンティグア総督夫妻、ブラントリー・セントキッツ外務大臣、ドゥーガン・セントビンセント総督、ロー

ラン・セントルシア特使（台湾駐在大使）が出席した。

● 29日付グレナダ紙は、28～29日グレナダで中国の一帶一路政策に関する中国カリブ会議が開催され、台湾承認国を含めカリブ諸国が出席し、同政策に基づくインフラ、観光、金融等の分野での中国からの協力を協議したと報道。

● 29日付セントキッツ紙は、同国はマーシャル諸島との間で、査証免除取決めに署名したと報道。

● 31日付セントキッツ紙は、政府は国際移住機関（IOM）、カリコム事務局長及び赤十字と協議の上、49人のハイチ人を強制送還したと発表したと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。